

令和7年度学校関係者評価表

<学校経営ビジョン（めざす学校像）>

【学校スローガン】「海に学び 海をひらき 世界にはばたく」  
 生徒の個性を大切にすることで、生徒がお互いを尊重し合い、支え合い、高め合う雰囲気醸成し、考える力と確かな技術、豊かな人間性を着実に身につかせ、適性を生かした進路を実現させることにより、生徒・保護者・地域・企業等に信頼される学校をめざす。

令和7年度の重点目標 スローガン：「シン・海洋 持続可能な海洋高校ならではの教育の推進」

①「海洋ブランド」の確立に向けた教育の推進

- 「生き抜く力」を身につけさせるために、基礎学力（見る力、聞く力、想像する力）の定着や健全な心身の育成、専門科目による校内外の教育資源（大学、企業、海外、学校間、教科横断等）を活用したDXの推進を図る。
- 各コースの専門性を高め、これからの産業界の在り方を見据えた教科横断型や体験型学習の推進を図る。

②生徒一人一人を大切にし向上心を高める教育の推進

- アクセシブルデザインの視点に立った授業改善を図る。
- スクールワイドPBSの視点に立った生徒支援の推進を図る。
- SC、SSWとの連携強化を図り、一人一人の生徒を確実にサポートする。
- 生徒の夢を実現させるためのキャリア教育、職業教育の充実を図る。
- 豊かな心を育むためにHR活動（言葉の学習、道徳等）や部活動の充実を図る。

③地域の期待に応える教育の推進

- SNSや報道機関の活用、学校開放や幼保・小・中学校との連携強化により、積極的に地域への情報発信を行う。
- 生徒に地域の魅力を再発見させ、将来、地域社会で活躍しようとする意欲を醸成する。

④第6代進洋丸の有効活用の推進

- 県民に広く開放し、海洋についての理解と関心を深める海洋教育に取り組む。
- 全国枠募集に係る寄港地でのPR活動に取り組む。

評価段階 A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分

重点目標	今年度の目標および取組（担当部署）	自己評価	関係者評価
①「海洋ブランド」の確立に向けた教育の推進	一人一台端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」により、生徒の主体的な学びの育成に努めた（教務部）	B	A
	学び直しの取組を実施し、基礎学力や就職試験等に必要学力を身につけるように努めた。来年度からは学び直しのさらなる充実をはかる取組を提案し実行した（スタディサプリ）（教務部）	B	
	「宮崎海洋高校ハンドブック（生徒心得）」を時代や校内の状況に臨機応変に対応し改正することができた。（生徒支援部）	A	
	異年齢集団との交流や現場実習（インターンシップ、職場見学等）を積極的に行い、職業理解に向けた取組を実施できた。（進路支援部）	A	
	宮崎カーフェリー株式会社と高鍋農業高校との連携協力に関する包括連携協定を締結することができた。（学校全体）	A	
	国立成功商業水産職業学校（台湾）との姉妹校・学術協定等を提携することができた。（海洋科学科）	A	
	九州地区生徒研究発表大会で優秀賞を受賞し、全国マリンロボットコンテストでは総合優勝することができ、文部科学大臣奨励賞と水産庁長官賞を受賞した。（海洋科学科）	A	
	専門高校魅力発信 Instagram 「いいね！」コンテストにおいて文部科学大臣賞（優秀賞）を受賞した。（海洋科学科）	A	
②生徒一人ひとりを大切に向上心を高める教育の推進	校内課題研究発表大会では中小企業家同友会に審査員をお願いし、生徒の取組を評価していただいた（海洋科学科）	A	
	DXハイスクールのプロフェッショナル型に採択され、地元企業との連携やDX関連機器による新しい技術の習得、加えて生成AIを活用した職員研修も実施することができた。（海洋科学科）	B	
	特別支援教育に関する専門性向上のための校内研修を行い、ICTを活用した授業やアクセシブル・デザイン化に取り組んだ。（教務部）	B	
	1年生に対して外部講師を招聘し、コミュニケーション学習（3回）を実施した。（生徒支援部）	A	
	生徒の自己肯定感を高める取組としてGood Behaviorを実施しているが、今年度は昨年度よりも表彰される生徒が増えた。（現在の時点で57名）（生徒支援部）	A	
	ICTを活用し情報提供を行い、早期の進路意識向上に努めた。（進路支援部）	B	
③地域の期待に応える教育の推進	SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）との連携が充実しているため、面談、家庭訪問そして外部関連機関との連携をスムーズに行うことができ、生徒への支援体制が充実してきた。（教育相談部）	A	
	全職員の協力を得て面接指導などを行い高い進路決定率（90%以上）を達成できた。（進路支援部）	A	
	海洋行事や海鳴祭（実習製品販売・バザー）、地域のイベントへの積極的な参加等で、協調性、自主性、責任感やリーダーシップ等の人間力を育成できた。（海洋科学科）	A	
	学校説明会やSNSの広報活動の成果として、体験入学の参加者が急増した。また、津波の影響で中止せざるを得なかった体験入学も、工夫を凝らし別の形式で実施することで県内外から多くの参加があった。（教務部）	A	
	県内での生徒募集に加え、県外での説明会（神戸、志布志、進洋丸寄港地）を実施し、中学校訪問（関東・関西・佐賀）を実施した成果があり、県外志願者が増加した。（教務部）	A	
④第6代進洋丸の有効活用	今年度様々な取組（コミュニケーション学習、SWPBS等）の成果として、昨年度より外部からの苦情を受けることが減り、また校内における生徒への指導の機会が減った。（生徒支援部）	A	
	全国カッターレース大会に向けた準備、教科担当や実習等、「海洋科学科」として各コースの枠を超えた協力体制ができた。（海洋科学科）	B	
	この1年間、宮崎海洋高校の魅力発信のため様々な取組を実施したが、その成果もあり今年度の入学志願者が大幅に増加した。（学校全体）	A	
	全国募集に係る学校説明会を進洋丸の寄港地（種子島と神戸）で実施した（教務部）	A	
④第6代進洋丸の有効活用	多目的航海として県民に広く開放したが、今年度は17団体が参加し多くの県民から感謝の言葉をいただいた。また、教育研修センターコネクとも連携し、船での活動を体験することで生徒の支援に役立つことができた。（実習船室）	A	
	航海技術コース・機関工学コースがハワイ、海洋資源環境活用コースとマリンフードコースが台湾へ国際航海を行い生徒全員が海外への航海ができるようになった。	B	